

学会だより

第 62 回 日本消化器病学会大会

竹原 徹郎

(大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学)

2020 年 11 月 5～8 日の会期で神戸で開催された第 62 回日本消化器病学会大会に参加した。例年どおり日本消化器関連学会週間(JDDW)の一環として開催されたが、新型コロナウイルス感染症の影響で JDDW では初めてのハイブリッド開催の学術集会となった。

例年であれば約 2 万人の参加者が、ポートピアホテル、神戸国際展示場、神戸国際会議場を訪れる。しかし、今回はリアル参加者は約 2,000 人と例年の約 10%、残り 90%が Web 参加であり、会場はどこも人影はまばらであった。各会場は、ソーシャルディスタンスに配慮した定員数と座席配置であり、アクリル板が設置されるなど感染予防対策が徹底していた。安心と安全が随所に提供されており、主催者側の入念な準備のほどが伝わってきた。

各会場では、座長や演者もリアルの出席ではなく、Web を介した登壇が目立った。しかし、発表内容や質疑応答は、どこも通常の大会時と同様に活況を呈していた。

With コロナの真ただ中ということで、もっとも影響を受けたのが海外演者の招聘である。全員が Web を介した出演になったが、発表、ディスカッションともに楽しむことができた。とくに、今年から各学会が Strategic International Session を新たに設けており、日本消化器病学会(JSGE)では、米国消化器病学会(AGA)と Microbiota をテーマに合同シンポジウムが開催された。JDDW Strategic International Session は、各学会がそれぞれ国際的な展開を加速させるために設けられた新しいプログ

ラムである。JSGE では来年は欧州消化器病学会(UEG)と、同様の合同シンポジウムを開催する予定である。

残念だったのは、海外演者などを交えての、評議員合同懇親会をはじめとした親睦の催しが軒並み中止となったことである。私は、とくに例年神戸動物王国で行われる合同評議員懇話会を楽しみにしている。JDDW 参加 5 学会の多くの先生方や海外招聘の演者の先生方と、立食で楽しむ 500 人を超える大パーティーは、学術的な意見の交換や親睦を深める貴重な機会である。Web を介した発表と質疑応答は便利ではあるが、人と人とがリアルに交流する学術集会ならではの face-to-face の機会が失われたことは残念に思った。

After コロナを見据えて、学術集会の在り方も徐々に変わっていくかもしれない。Web 開催の良いところは、まずは参加が容易であるということである。これは遠方である、日々の業務を休むことができない、あるいは学術集会が重複しているなどの理由で参加できない先生方には便利であろう。また、今回のようにコンテンツを会期終了後にオンデマンドで視聴できることは、理解を深めることに役立つであろう。デジタル時代であるから、今後も Web 化したほうが良いと思う。一方、人と人がリアルに交流する学術集会の場は、いつの時代でもきわめて重要である。今後、学術集会の在り方については、今回の経験を生かして多面的に議論していくことになるであろう。